

魅力ある大学院教育イニシアティブ「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」プログラム  
(継続プログラム)

## 「国内学会・研究集会」参加報告書

2008年12月3日

専攻・講座名 情報科学学専攻

学年 博士前期課程 1回生

氏名 本多 祐美子

魅力ある大学院教育イニシアティブ「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」プログラムの支援による国内学会の参加報告書を提出します。

### 記

1. 学会名称：日本気象学会2008年度秋季大会
2. 開催場所：仙台国際センター（仙台市青葉区青葉山、図1）
3. 開催日程：2008年 11月 19日（水）～2008年 11月 21日（金）



図1：学会開催場所（仙台国際センター）入り口

4. 自分の発表について：

「衛星観測による東南アジアにおけるバイオマスバーニングの研究 1. 火災発生件数と大気微量成分の対応」という題目で、大会1日目にポスターセッションとして発表しました。（図2）

コアタイム（担当者がポスターの近くに待機し、質問を受けたり説明したりする時間）では、多くの方に興味を持って頂き説明を求められました。特に研究分野の近い荻野先生から、私の研究している東南アジアのベトナムのハノイでの気象現象の特徴について貴重な意見をいただくことができました。「ハノイは、3-4月に逆転層を形成し、中国南部からの低層雲がかかることから、エアロゾルが多くなる可能性がある」という意見でした。バイオマスバーニングとの対応がなかったハノイのエアロゾルは何が原因なのかははっきりわからず、気になっていました。雲のデータや鉛直分布が得られるデータを解析することによって衛星観測によって捉えられたものは何が原因であったかを明らかにしたいと思っています。1時間という短い時間でしたが、大変有意義な時間を過ごす事ができ、今後の研究に生かしていこうと思っています。



図2：コアタイムのようす

##### 5. 聴講したものについて：

###### ・ポスター発表

大会3日目のポスターセッションでは、自分の研究分野と近いポスターを拝見しました。『CALIPSO データから求めたバイオマスバーニング領域におけるエアロゾル層と雲層高度の関係』という題目のポスターは、雲の上のエアロゾル量を推定するという内容でした。衛星観測データでの雲の扱いについての解析方法、雲の影響によってエアロゾルが多く見積もられる可能性についての意見交換を行う事ができ今後の参考になりました。『エアロゾルの光学特性導出のための太陽放射観測の雲除去』という題目のポスターは、雲の大きな時間変動を利用して、連続観測をしているライダーのデータから雲を判定するという内容でした。研究内容について疑問に感じたことを質問することで、色々な考え方に触れる事ができました。

###### ・口頭発表

大会中は様々なセッションがありました。特に微量気体セッションとエアロゾルセッションはどの講演も興味深い内容でした。その中でも荻野先生の『ベトナム・ハノイにおけるオゾン変動』の講演は大変勉強になりました。私が解析している地域でのオゾンゾンデデータの解析結果についての講演でした。東南アジアでもゾンデ観測を行っていることを知ることができました。講演内容は主に上部対流圏でのオゾン変動についてでしたが、高度変化にも触れられており、対流圏下層のオゾンのメカニズムを理解するためには3次元的な輸送過程を考慮すべきである事が示唆されていました。講演後のポスターセッションの時間に荻野先生から直接お話を聞く事ができました。

学会発表に向けて、準備をする中で今後の課題等を明確にしていこうとすることができました。発表では

エアロゾルや衛星観測で研究されている方とお話することで自分の知識のなさを痛感し、今後学ばなければならないことが多くあることを感じました。また学会で発表ができるように日々研究に精進したいと思います。

この度は、国内学会参加のために魅力ある大学院教育イニシアティブ先端科学の芽を産み出す女性研究者育成プログラムより支援していただき、ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

以上